

2001 年夏の新装開店からはや 25 年、「ダイナミックオーディオ 5555」が築き上げた日本を代表するオーディオショップという地位を維持し続けたことは、賞賛に値します。

ハルズサークル 5,000 号という数字は、単なる発行回数ではなく、音楽とオーディオについて考え、聴き、そしてそれを誰かに伝えようとしてきた時間の積み重ねなのだと思います。

ひとえに音楽をより良い環境と装置で聴きたいという思いを、オーディオファイルに紹介し、提案し、啓蒙していく努力は並大抵のものではない、と思う次第です。

それは、ご自身の体験したオーディオ装置による音楽表現を、忌憚なく、素直にお伝えしたいという、川又さんの良心に基づく努力であらうかと思っております。

これは私の本心であり、決して綺麗事を述べているわけではありません。7 階の部屋で、誰もいない静謐な環境で、聴き慣れたトラックを演奏して、納得し、または、失望し、それを文章に表す、これは小説家や評論家ではない人にとってはなかなかできることではありませんよね。

さて、世の中変わった、しかも早足で変わっていく現代の音楽再生環境において、どのように HAL' s Circle が変遷してくのかも、私の興味のあるところです。

LP から CD へ、そして LP への回帰、そこにストリーミングサービスの普及と台頭。メディアにあった評価をすることも今まで以上に神経を使うでしょうし、責任も大きくなっていくでしょう。私たち輸入代理店も、変化に追いつかねばなりません。

デジタル音源のディスク再生、ストリーミング再生、ダウンロードファイル再生で世界最高水準のメーカーと私たちが付き合っていくということは、ごく必然の歩みであります。

商業的な実績だけではなく、メーカーの代表者との長年にわたる信頼関係を大切にしてきたことも、私にとってはこの仕事の大きな財産です。

一番古いお付き合いは Jeff Rowland と Avalon です。40 年前の訪問時の写真を見ると、なんと自分は若かったのだろう、と感慨深く思っています。

川又さんにいただいた名刺もアフロヘアで似顔絵が描かれていました。お互いに、よくここまで頑張ってこられた、と思えるような年齢になりましたが、John Lennon がいみじくも言ったように「新しいものに対して興味を抱き、世の中を少しでも良い方向に持って行きたいというのが若さである」ということでしょう。その意味では、川又さんはとても若い人、の範疇に入ります。私もそのようになりたいと思います。

とは言っても、原点は「ごく自然な音楽体験を聴き手に提供する機器を探す」ということに尽きるのではないのでしょうか。奇を衒うのでもなく、突飛な音楽表現をするのではなく、心が自然に落ち着くような、気品ある音を持って、聴き手を演奏現場にご案内するようなオーディオ機器を皆様に紹介したい、というのが、当社太陽インターナショナルの基本スタンスです。

古い話になりますが、マーク・レビンソン・オーディオ・システムズの初期製品を手がけたジョンカールと一緒にプリアンプを作ろうと何年か計画を進めたこともありましたが、残念ながらカリフォルニア州バークレーの山火事で彼の仕事場が全焼し計画倒れになってしまいました。

また、マランツ モデル2から9までを作り上げてマランツ帝国を築いたシドニー スミスさんともマランツ7の現代版を作るプロジェクトに取り組んで頂いたこともありましたが、スミスさんも意気軒昂とプロジェクトに臨んだのですが、残念ながらこれも形にはなりませんでした。

一方、音量や音質だけでは表現しきれない、音楽の空間性や表現力を、という思いで、本当に感激したウィルソンオーディオ、WATTをディビッド ウィルソンと日本を回ってサウンドステージという表現力を紹介したことなど、今では懐かしい思い出です。

私にとっては、オーディオ界のレジェンドたちと一緒にプロジェクトに取り組んだことが、この業界に入ったきっかけにもなり、以後、初心を忘れずに努力致しております。

私自身も長くオーディオ業界で仕事をしてまいりました。その経験から見ても、川又さんのお仕事には共感するところが多々あります。この拙文をお読みいただいている皆様には、ぜひそのようなお気持ちで、川又さんのオーディオシェフとして、当社の製品によって料理された音楽をご試聴いただければ大変に嬉しいです。

音楽は世界共通言語です。どの時代にも戦争の最中にも、音楽はわたしたち人間の心を癒し、触発し、昂めてきました。その、人類の世界遺産とも言える音楽を、アーティストの意図を汲み取って制作したエンジニアの作品をできる限り忠実に、そして、美しく聴き手に届けたい、という思いは川又さんも同じであろうかと信じております。その信念に基づいて、これからもどうかHAL's Circle を続けてください。楽しみにしています。

(株) 太陽インターナショナル 代表取締役社長 内田眞一